

令和4年度 日本大学文理学部個人研究費 研究実績報告書

所属・資格 中国語中国文化学科・特任教授

申請者氏名 山口 守

研究課題		アナキストの農村教育運動と巴金
報告の概要	研究目的 および 研究概要	スペインでフランシスコ・フェレルを中心に始まった近代学校実践は、彼の死を契機にアナキスト・ネットワークでアメリカへと広がり、その地で子ども主体の教育と自由共同体創設のモダン・スクールの理想を生み、同時代のジョン・デューイの教育哲学とも共鳴しながら、デューイの学生であった陶行知や胡適を通じて近代初期中国へと伝播した。ここでは学校教育が国民国家建設の重要な手段であった近代中国の歴史を踏まえながら、一般的な近代化論に包摂される教育観ではなく、1920-30年代にアナキストによって展開された農村教育運動が、国内外の近代学校概念とどのように関連、呼応し、またアナキズムに基づく自由自治共同体実践の貴重な例となったかを、運動や人間相互の「交差」、「共鳴」、「感化」という運動的な視点から考えてみたい。
	研究の結果	本年度の研究では Diffusion という観点から、単なる一方通行的影響関係ではなく、蒔種された思想の核が、異なる地域やでどのように繁茂するかを、思想の相互関連性や運動性に注目して研究を進めた。具体的にはモダン・スクール運動がスペイン・アメリカ・中国においてどのように展開されるかを比較しながら、特に欧米や日本のアナキズム運動と交流する中から発展した中国アナキズム運動が、1920年代に都市における革命活動の基盤を失いながらも、1930年代にかけて農村部での自治運動や教育実践へと転戦して、アナキズム受容を深化させた経緯を踏まえ、複数の波紋が交差、重複する場として、中国アナキストによる農村教育運動があったと考え、特に福建省泉州と広東省新会のアナキストによる教育運動を検証した。
	研究の考察・反省	Diffusion という観点が単なる影響関係を脱して相互運動性を検証する有効な観点であることは、研究成果をまとめて刊行することで実践的に検証できた。その意味では本研究が持つ意義を公開できたことで、大きな成果を上げたと言える。今後の研究について言えば、福建省泉州と広東省新会のアナキストによる教育運動が、実態的にはアナキズム革命であったこと、およびそれをつぶさに見聞した巴金の愛情三部曲を中心とする作品群にそれがどのように描かれているかを検証することで、アナキスト巴金と作家巴金の運動性についても研究を進めたい。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	山口守「中国アナキストによる農村運動の展開ーモダン・スクールとの共鳴」、田中ひかる編『社会運動のグローバルな拡散：創造・実践される思想と運動』（論創社、2023年3月3日）、143—189頁。	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者		